令和6年9月24日（火曜日）

経済観光委員会

第4委員会室

出席委員

竹中由佳、中西祥子、阿山正人、八木隆次郎、
石見和之、宮本吉秀、杉本博昭、嶋谷秀樹、
西村しのぶ

再開

9時56分

観光経済局

9時56分

職員紹介

前回の委員長報告に対する回答

・会議室予約において、目的とする会議室を見つけることが市民の負担とならないよう、空き状況の確認がしやすい会議室予約の仕組みづくりに努められたことについて

本市公共施設の会議室等を利用する場合には、姫路市公共施設予約システムを通じて予約することができるが、予約画面において会議室の定員等を確認することができないため、会議室の選択に手間がかかる状況であることは認識している。

そこで、公共施設予約システムの更新の際に、会議室の定員や空き状況などの確認を含め画面構成や操作性の向上を図り、市民がより容易に公共施設の予約ができるよう、関係部局と協議を行っていきたい。

また、姫路・西はりま地場産業センターの解散に伴い、本市が残余財産を継承することとなる。同法人が運営している貸し会議室事業についても、施設の設置管理条例の制定などの所要の手続を経た上で、本市が引き続き実施する予定としている。予約に当たっては、市民の利便性に配慮し、公共施設予約システムの活用が可能となるよう、現在、調整を進めているところである。

・姫路城縦覧料の値上げに関するマスコミ報道があったが、料金改定の際には価格設定における検討事項を明確に示すこととし、単なる値上げにとどまらない料金改定について丁寧な協議を重ねられたいことについて

姫路城の保存活用計画の策定に合わせて、姫路城の料金改定についても、庁内で様々な議論を行っている中で様々な報道がなされ、情報が錯綜する状況となってしまうことはおわびしたい。

今回の委員会において、料金改定の方向性を説明し、意見・提言を頂戴し、さらに検討を深めて、次回に料金案を示したいと考えている。

議案説明

・議案第113号 姫路市平和資料館条例の一部を改正する条例について

報告事項説明

- ・世界歴史都市会議の誘致、ウェールズ政府等訪問について
- ・プレミアム付き商品券事業について
- ・Himeji 大手前通りイルミネーションの開催について
- ・第4期中心市街地活性化基本計画（案）について
- ・姫路城保存活用計画案に関する市民意見（パブリック・コメント）の募集結果について
- ・姫路城縦覧料等改定の方向性について
- ・手柄山中央公園再整備事業の進捗について

質疑・質問

10時37分

（質問）

手柄山スポーツ施設整備運営事業の今後の方針として、物価変動及び設計変更に伴う事業費増の議決更正を予定しているとのことだが、元の事業費が示されないことには判断をしかねる。物価変動に伴う改定の対象となる直接工事費が幾らなのか説明してもらいたい。

また、改定額の調整中であるとはいえ20億円から90億円まで幅があるが、もう少し改定見込み額を絞った形で報告できなかったのか。

（答弁）

物価変動に伴う改定の対象となる直接工事費は約224億円である。

また、事業費の改定については、現在、事業者と協議中のため数十億円と説明したが、直近の協議内容を踏まえると40億から50億円程度となるのではないかと考えている。しかしながら、まだ詳細について精査が必要であり、増減する可能性はある。

（質問）

適正な事業費の改定について事業者と協議中とのことであるが、本来、適切な改定額は協議で決めるものではなく、明確な基準に基づいて市が事業者に示すものではないのか。

昨今の建設工事における物価上昇率は、材料・製品価格の高騰だけでなく、労務費の高騰や大阪・関西万博など大型プロジェクトの同時進行による建設需要増などの様々な要因が複合的かつ重層的に影響し、非常に分かりにくくなっている。そのような状況で、適正な改定額となっているかどうかはどのように審査するつもりなのか。

(答弁)

事業費改定に係る事業者との協議では、より実勢価格を反映させるため、事業者がサブコンなどから見積りやヒアリングを行いながら改定額の案を作成し、それに対して、手柄山中央公園整備課において、適正な改定額となっているか、建設物価指数などの指標を参考に精査を行っている。

今後、緊張感を持って事業者との協議に臨みたい。

(質問)

当該施設に使用している多くの大型の特注設備機器は、代替性がないものが多く、値上げ額が事業者の言い値になってしまうのではないかと心配するがどのように考えているのか。

(答弁)

加工に特殊技能を要する一部の鉄骨などについては事業者の言い値となる可能性はあるが、その価格上昇の適正值は、他事例とも比較しながら市でも把握しており、法外な金額にはならないと考えている。

(質問)

競争入札後の設計変更は入札の透明性に影響を与えるため好ましくないと考えるがどうか。

(答弁)

主な設計変更箇所は、連絡通路の屋根の拡張やアリーナ観客席の階段への手すり設置などで、これらは障害者団体との協議を経て必要と判断されたものであり、入札後ではあるが、ユニバーサルデザインの充実や安全性の向上のため変更したものである。

(質問)

当該施設は今後何十年も市民が使用する施設であるため、余計な支出を避けるとともに工事の品質を確保していくことが重要である。市としてどのように工事の管理をしていくつもりなのか。

(答弁)

工事の品質管理については、なるべく市の技術職員

が現場に赴いて確認し、工事の進捗把握を行っている。

また、現場担当者からの詳細な報告も受けながら、適切な品質を維持するよう努めたい。

(質問)

姫路城の外国人観光客数は、外国語パンフレットの取得数で集計しているが、家族で来てもパンフレットの取得が1つなら1人と集計されてしまうことから、実際に姫路城を訪れている外国人は公表値よりもっと多いのではないかと考える。

今後、外国人に対する縦覧料の値上げを検討する中で、外国人観光客の集計方法や、改定額の試算方法、値上げに伴う観光客数への影響などに対し、どのような考えを持っているのか。

(答弁)

姫路城では英語、フランス語、中国語、韓国語の4種類の外国語パンフレットの取得人数から公式な外国人観光客数及び内訳を集計しており、これまでの統計結果との整合性の観点からも、一定期間は継続して従前の集計方法によるものとしたい。

将来的に、予約システムを整備すれば、クレジットカードの情報から、現行より詳細な集計ができるのではと考えている。

また、姫路市においては通過型観光が課題であり、縦覧料の値上げに合わせ滞在型観光を推進するため、飲食店と一緒に予約できるシステムや手荷物預かりサービスなどの外国人観光客向けのプレミアム料金プランを検討している。

これらは、コンベンションビューローと協議しながらメニューを作成し、順次実施していく予定である。訪日外国人向けのプレミアムプランは、条例とは別の体系になり、普通の料金にプレミアムを加えたパッケージとしてコンベンションビューローで提供する予定である。

なお、現時点では、外国人の縦覧料のみを値上げするのではなく、基本の縦覧料を値上げし、姫路市民へは割引をする形で検討をしている。

縦覧料値上げに伴う観光客数の見込みとしては、外国人観光客数については、値上げの影響はなく、むしろインバウンドにより増加するのではないかと見込んでいるが、姫路市民以外の日本人観光客については影響があるものと考えており、適切な値上げ額につい

て検討していきたい。

(質問)

前回の姫路城マラソンでファンラン5キロにおける折り返し地点のコーンが設置されなかったという運営ミスがあった。今年度の大会申込みが8月に終了しているのなら、前大会のミスが今大会への申込みに与えた影響の分析や、同様のミスをしないための対策などを本委員会に報告するべきと思うがどうか。

(答弁)

前回のミスは、マラソンの部の最後尾ランナーをファンランのランナーが追い抜く想定をしていなかったことが原因であるため、有効な対策としては、ファンランのスタート時間を遅らせることが考えられるが、より確実な対策については検討中である。

また、ファンラン5キロの応募人数について、前回は917人、今回は1,443人の応募があり、昨年の参加者で再度応募があったのは493人である。

(質問)

ファンランのコースを分ければ同様のミスは起きないのではないか。

(答弁)

コース変更には警察との協議や沿道住民の理解が必要であり、非常に困難である。運営体制や、ランナーへの示し方など、コース変更以外の方法による対策を検討したい。

(要望)

各自スタッフが、自分事として捉えて大会運営に臨むことが大切である。

今後、姫路市で開催する大規模なスポーツイベントやコンサートなどで同様のミスが起きないように、今回のミスとその対策については、庁内で共有されたい。

(質問)

外観が大きな魅力である姫路城では、縦覧料を払って入城することはせず、三の丸広場から外観だけを見て帰る観光客もいると思うが、内訳の調査などはあるのか。

(答弁)

令和6年8月に調査をしており、集計結果がまとまり次第報告したい。姫路城グランドオープンの際の調査によると、外観だけを見て帰る割合は2割で、後の8割は入城しているようである。

(質問)

縦覧料の値上げにより、入城せずに帰る観光客の割合が増えるのではと懸念するが、三の丸広場の有料化についても検討するべきではないか。

(答弁)

昨今、三の丸広場への夜間の進入やぼやが発生する事案があったことから、まずは安全管理、文化財保護の観点から夜間閉鎖の取組を進めたいと考えている。

三の丸広場の有料化については、夜間閉鎖の環境が整った後に方法も含め検討していきたい。

(質問)

平和資料館の条例改正は、観覧料を必要とするエリアと無料のエリアを分かりやすく明示することを目的としているが、同改正に合わせて運営方法や案内板などに変更は発生しないのか。

(答弁)

運営の実情に条例を合わせるための改正であるため、運営方法等に変更はない。

(要望)

他都市ではどこまでが観覧可能エリアなのか分かりにくい施設もあるため、本市は来館者にとって分かりやすい館内表示にするなど工夫されたい。

(質問)

現在、国際交流の取組を強めていると感じるが、姫路市としてその効果やメリットをどのように考えているのか。

(答弁)

本市における国際交流の効果としては、姉妹都市・姉妹城の提携を通じて友好親善・文化・観光・経済など様々な分野での交流が実現している。

また、グローバル化が進み、海外の情報取得が容易になったことで、海外に関心を持つ市民や企業が増えていると感じている。

これまでは青少年交流をはじめとする相互文化理解を目的とした交流が多かったが、現在は環境や経済面での連携も進めており、海外交流が転換期に来ていると考えている。

行政としては、観光、文化、スポーツ、環境施策などによる交流を深め、商工会議所や民間事業者、文化団体、スポーツ団体と連携して広がりを持たせたいと考えている。

また、SDGs 未来都市を目指している姫路市としては、郷土愛を育み、SDGs マインドを持つグローバル人材の育成にもつなげていきたいと考えている。

(要望)

姫路市には非常に高いポテンシャルがあると感じているものの、海外や他市町から見ると遅れている部分があると思う。

この取組を機に、市民意識の向上を図り、行政内でも水平展開を進めることで、市全体としてのレベルや基準が高まるのではないかと感じており、効果を最大限に発揮できるように取り組んでもらいたい。

また、青少年の交流や環境施策、SDGs などを通じて、姫路市が世界水準でリードしていけるように努められたい。

(質問)

滞在型観光の推進のため、外国人観光客向けのプレミアムプランを検討することだが、それには外国人に対する情報発信・旅前告知が必須であると思う。どのように取り組もうと考えているのか。

(答弁)

インバウンド向けの情報発信として、令和5年度に観光庁の補助を受け、海外富裕層向けの特別な旅行プランを提供する観光再始動事業という取組を行った。

結果として応募はなかったが、超富裕層向けの商品を販売する旅行事業者を招いたモニターツアーに変更したところ、海外富裕層を中心とした旅行客に対してネットワークができつつある。

また、プレミアムプランについては、コンベンションビューローの海外プロモーションにより、旅行会社からも販売してもらえる可能性もあり、様々なネットワークを使いながら事前販売を促進したいと考えている。あわせて、観光案内所で同プランの予約を受け付けることも考えており、知らずに姫路に来た旅行客に対しても、観光案内所で手続を行い、予約時間までの間に商店街で食事をしたり、他の観光施設を回ったりすることで滞在時間の延長を図りたいと考えている。

(意見)

旅行会社やコンベンションビューローが効果的に情報発信を行うためには、オンライン旅行代理店などインターネット上の整備も必要になってくると思う。

情報発信の動線をよく考えながら進めていけば、よりよい事業になると感じている。

(質問)

姫路城縦覧料の値上げの際には市民割引を検討しているとのことだが、どのようにして市民だけに割引を適用しようと考えているのか。

(答弁)

現時点では、マイナンバーカードの活用がよいのではないかと考えている。しかしながら、顔認証などのIT技術も進歩しているので、利用者にとって最も手間にならない仕組みにすべく情報収集に努めたい。

(要望)

運営側のミスを抑制するためにも簡便なものとなるよう、しっかり検討されたい。

(質問)

手柄山スポーツ施設整備運営事業の物価上昇に対する契約変更額について、活用できる財源はあるのか。

また、市の一般財源でどの程度賄うことになるのか。

(答弁)

手柄山スポーツ施設整備運営事業では、国庫補助金として、都市構造再編集中支援事業及び社会資本整備総合交付金を活用している。今回の物価スライドによる増額分を含めた全体事業費に対して国庫補助金を要求し、国からの内示を受けることになるため、物価スライドによる増額分も補助対象である。

市債、一般財源等の内訳については、内示状況なども精査しながら次回定例会の議決更正の際に示したいと考えている。

(質問)

同事業の現時点の財源内訳の見込みについて説明してもらいたい。

(答弁)

現在の整備費は約275億円となっており、令和6年度時点で国庫補助金を約70億円内示で獲得している。その他財源としては、市債で約90億円、21世紀都市創造基金で約85億円、民間資金の活用を約30億円で考えている。

(要望)

有利な財源確保にしっかり取り組まれない。

また、新美化センターなどの今後の大型事業も踏まえ、市の長期的な財政状況を見極めながら庁内でしつ

かり調整されたい。

(質問)

姫路城保存活用計画案（以下、「保存活用計画」という。）について、これまで何度か国から差戻しを受け、計画策定が進まないと聞いているが、その要因について説明してもらいたい。

(答弁)

当初の計画は、埋蔵文化財の特別史跡部分と国指定建造物部分で個別に作成しており、令和2年に特別史跡部分の計画の改定を進めていたところ、平成25年に策定した国指定建造物の計画も間もなく更新時期が来ることから、一体として作成してはどうかと文化庁から意見があった。

姫路市としても、世界遺産である姫路城は、特別史跡と国指定重要建造物が不可分のものであるため、一体の計画としてまとめることが適切であると判断し、いったん引き戻して、新たに策定するに至ったことが計画策定が進まなかった要因である。

(質問)

保存活用計画において、動物園内の試掘や御作事所出丸と内堀の整備計画に着手するとあるが、これを実施するには御作事所等の跡地にある動物園の移転をする必要があるのではないのか。

長らく動物園の移転先について議論が滞っている状態であるが、移転先の議論をせずして保存活用計画が推進できるのか。

(答弁)

動物園については、移転の上、存続させる方針ではあるものの、新動物園の在り方について社会情勢や市民ニーズ、市の財政状況等も勘案しながら慎重に検討する必要があることから、移転先の検討にも時間を要している状況である。

一方で、施設の老朽化や動物福祉など、喫緊の課題に対応する必要もあることから、まずは、新動物園整備に先立ち、日本動物園水族館協会を通して他の動物園等に譲渡、貸付けして現動物園の縮小作業を進めているところである。あわせて、御作事所出丸及び内堀の整備に係る試掘等の調査・検討を進めようと考えている。

(質問)

動物園の縮小は、新動物園に向けてというよりも、

現施設の飼育環境が動物福祉の観点から望ましくなくいたために行っているものと理解している。今後の動物園の在り方を検討するには移転先の議論が必須であると思うがどうか。

(答弁)

令和2年10月に、保存活用計画の検討専門部会から、新動物園は交通アクセスに優れていることや、気軽に行くことができる中心地域かその周辺が望ましいとの意見があったことから、新動物園については、手柄山中央公園の文化センター跡地で水族館と植物園の一体的な整備も視野に入れて検討を始めているというのが現時点の状況である。

(質問)

令和2年の時点で、専門部会からそのような答申が出ていたのであれば、いまだに文化センター跡地で検討するというのではなく、具体的に候補地を挙げて移転先について議論を開始すべきである。

また、動物園の移転先は、保存活用計画の推進に当たっても必要不可欠な検討事項であると思うがどのように考えているのか。

(答弁)

動物園の移転先については、手柄山中央公園の2期整備との兼ね合いもあり、議論を進めるのは難しい状況である。

現在は、新動物園が整備されればいつでも戻すという条件で動物の貸付けに係る交渉を進め、動物園の縮小化に努めたいと考えている。

(要望)

動物園の移転先の議論は20年以上進んでいない。保存活用計画と動物園の移転先の議論は平行して行うべきであり、保存活用計画を先行して進めるならば、動物園の移転先の議論についてもどのように進めるつもりなのか、できるだけ早く今後のスケジュールを示されたい。

(質問)

平和資料館の条例改正は、1階は有料、2階は無料という実情に条例を合わせたとのことだが、包括外部監査の指摘があるまで、条例と運用の実情が整合していないことに気づかなかったのか。

(答弁)

平和資料館の開館当初は、1階、2階ともに有料とし

て条例制定したものと推察するが、2階の多目的展示室で実施するのは子どものポスター展示や平和企画展のような教育的な観点の展示で、有料とすることになじまないということもあり、1階の常設展示室の資料を観覧する場合は観覧料を徴収するが、2階の多目的展示室で市が主催する企画展等の資料を観覧する場合は無料として運営していきたく。

市としては、既存の条例であっても観覧料は常設展示室のみのものとして読めると解釈していたが、条例上明確に区別されていない以上は、そのような解釈はすべきでないとの包括外部監査の指摘もあり、誤解を招く表現は改めるべきであると考え、条例改正をするものである。

(質問)

包括外部監査に指摘されるまで来館者に誤解を与えるような条例をそのまま運用しているところを見ても、平和資料館の運営に対して真剣に取り組んでいるのか疑問であり、そのような認識が施設のマンネリ化を招いているのではと思う。

手柄山中央公園の第2期整備の検討を進める時期が来ているが、今後の平和資料館についてどのようなビジョンを持っているのか。

(答弁)

まもなく30周年を迎えるに当たり、現場からは施設や常設展示についてしっかり見直していきたいという声が上がっている。

市全体の財政状況も勘案しながらとはなるが、30周年だけでなく、その先を見据えた平和資料館の在り方について、真剣に取り組んでいる現場職員の声を大切にしながら、副市長も交えて議論しているところである。

(要望)

平和教育は昨今の社会情勢もあり注目されている。姫路市における平和教育及び平和資料館のあるべき将来像についてしっかり検討されたい。

(質問)

手柄山スポーツ施設整備運営事業において整備するスポーツ施設について、総合スポーツ会館など既存の市内スポーツ施設と比較して利用料金が非常に高額になるのではないかと危惧している。

同施設の利用料金についてどのようにしようと考

えているのか。

(答弁)

同施設の利用料金については、プロスポーツ等の大規模大会だけでなく、市民にも広く利用してもらうことを目的に、募集の段階から、高額となり過ぎないよう市において提案上限額を設定しており、その範囲内で事業者から提案を受けている。

昨今の物価高騰を受け、一部で料金の見直しを検討しているものの、当初の提案額を基本としながら、事業者と協議を進めているところである。

(要望)

市民にとって使いやすい料金設定となるよう十分配慮されたい。

(質問)

姫路球場の外野フェンスを12区画に分け、広告スポンサー企業の広告看板を掲げているが、下地となる外野フェンスが大きく色あせている。

企業には1件につき年間30万円と高額な広告料を支払ってもらっていることから、広告掲載の場として魅力的なものとなるよう外野フェンスをきれいな状態にできないのか。

(答弁)

広告スポンサーを募集する段階できれいに塗装しておけばよかったが、配慮不足であった。

現行の広告スポンサー契約はあと1年を残しているため、その間は現状のままとし、次回更新の際に広告枠の拡充も含めフェンスの塗装も検討したい。

(質問)

令和6年11月のウェールズへの訪問はどのような経緯により実現したのか。

また、今回の交流が姫路市へもたらす効果についてどのように考えているのか。

(答弁)

令和5年9月に駐日英国大使・在大阪英国総領事・ウェールズ政府日本代表等を本市に迎えた際、姫路・播磨地域の脱炭素をはじめとした環境・エネルギー施策について視察したいとの希望があり、姫路商工会議所を通じて関西電力及び山陽特殊製鋼への訪問及び意見交換を行った。その際に、本市の脱炭素、エネルギー施設に対し強い感銘を受けたとのことで、コンウィ城との姉妹提携5周年を機にウェールズ訪問を計画

していたところ、ウェールズ政府から本市及び姫路商工会議所に、同政府並びにウェールズのSDGs及びエネルギー関連の企業などとの交流の提案があったものである。

今回の交流の効果としては、まず行政としては、ウェールズにおけるエネルギー・環境施策について、視察・意見交換を通じて得た見識を本市の所管部署へフィードバックできる点が挙げられる。

また、商工会議所が同行したことは、新たなビジネス機会の創出につながる可能性があり、本市への影響として非常に大きいものであると考えている。

(質問)

第20回世界歴史都市会議の誘致を目的として、スロベニアのリュブリャナ市を訪問しているが、同会議はこれまで日本で開催されたことはあるのか。

(答弁)

日本では1987年、1994年に京都市、2010年に奈良市で、これまで計3回開催されている。本市で第20回大会の誘致に成功すれば日本で4回目の開催となるため、誘致成功に努めたい。

(質問)

今回のポーランドのクラクフ市への訪問は、ウクライナ避難民交流事業にも関連するものとのことだが、同事業は国の関与の下、行う事業なのか、それとも姫路市が独自で行う事業なのか。

また、同事業で、受入れを予定する人数について説明してもらいたい。

(答弁)

同事業は、令和5年に在ポーランド日本国大使館を訪問した際に、大使から提案されたことから事業化に至ったという経緯もあり、市独自の事業ではあるが、国及び駐日ポーランド共和国大使館からの協力を受けながら進めているものである。

なお、このたび受け入れるのは、ポーランドのクラクフ市に避難しているウクライナ避難民の中高生10人と、引率の大人2人となっている。

(質問)

令和5年度の大手前通りのイルミネーションに使用したLED球は、イベント終了後、本市で保管するとの説明であったと思うが、欠損なく保存できているのか。

(答弁)

前回使用したLED球については、令和6年2月のイベント終了間際に不具合がないことは確認できている。その後、日の出車庫跡地のスペースを借りて保管している。

22万球と大量のLED球を使用することから、令和5年度のイベント開催業者を決めるプロポーザルの際には保管方法についても審査項目としてしっかり審査しており、現在の保管状態についても不具合はない。

10月には6年度開催に向けLED球の取付け作業に入るが、その際にもしっかりと状態を確認しながら対応していきたい。

(質問)

令和5年度のイルミネーションは石井幹子氏のデザイン監修で好評だったと思うが、6年度のイルミネーションのデザインはどうするのか。

(答弁)

事業者提案として、5年度に引き続き石井幹子デザイン事務所でデザイン監修をしてもらうことになっている。

(質問)

5年度に使用したLED球を流用しても6年度のデザインに対応できるのか。

(答弁)

使用しているLED球は、基本的にフルカラーLEDで、多様なデザインへの対応が可能であり、問題ないと考えている。一部、白単色のLEDも含んでいるが、既に監修された令和6年度用のデザインに対する試験点灯も実施しており、問題ないことを確認している。

(質問)

デザイン監修に係る費用はどの程度なのか。

(答弁)

デザイン監修料は、5年度は約850万円となっているが、6年度は一からデザインするわけではないので約450万円で契約している。

(要望)

6年度は3万球のLEDを増やしていることから、ぜひ5年度以上のものとなるよう取り組まれたい。

(質問)

昨今の夏は非常に暑く、熱中症対策が重要であるが、

保存活用計画に対するパブリック・コメントの中にも、大型扇風機やテントの増設、迎賓館を熱中症対策のための待機場所として開放してほしいといった市民からの意見があった。

姫路城における令和6年度の熱中症対策の取組状況と体調不良となった観光客はどの程度いたのか説明してもらいたい。

また、パブリック・コメントの中には、姫路城における今後の熱中症対策の一環として、日傘の販売を検討してはどうかとの意見もあった。今後の縦覧料上げに伴うプレミアムサービスとして、熱中症対策も含めた企画を検討してもいいのではと思うがどうか。

(答弁)

今夏に姫路城で実施した熱中症対策としては、入城改札口の前にテントを2張設置し、入城の行列が日陰となるよう対策を行った。

また、縦覧料の引上げに伴うプレミアムサービスの内容については、熱中症対策も踏まえ、様々な意見を聞きながら、今後検討していきたい。

最後に、詳細な観光客の体調不良者数を把握していないが、救急車を呼んだ事例もあることから、消防局とも連携しながら引き続き対応していきたい。

(要望)

家族と来ても高齢や身体障害を理由に、城に登らずに外で待っている人もいる。入城前の行列への熱中症対策も大切だが、長時間外で待つ人が暑さをしのげる場所があればよいと考える。

姫路城内で新たに施設整備をすることはハードルが高いのは理解しているが、そのような人たちへの熱中症対策についても検討されたい。

(質問)

プレミアム付き商品券事業について、令和5年度は30万セットで6年度は25万セットの発行ということだが、発行数を減らした理由について説明してもらいたい。

(答弁)

予算措置できた事業費の減少が大きな理由である。

ただし、5年度はデジタル商品券のプレミアム率を30%としていたところ、6年度は25%に下げて、事業費当たりの商品券の発行可能枚数を増やしており、できる限り多くの市民に行き渡るよう配慮している。

(質問)

5年度は336店舗が紙の商品券のみの取扱いで参加していたと聞いている。今回、デジタル商品券のみとしているが、5年度に紙での参加だった店舗はデジタル化に対応することができるのか。また、それにより参加店舗の総数が減ってしまうのではないのか。

(答弁)

店舗がデジタル商品券に対応するには、市が発行するQRコードをレジ等に掲げるだけでよく、特別な機器の準備等は不要となっている。加えて、紙の商品券には、商品券の集計、封入・封緘、金融機関での換金といった煩雑な手続が必要であったが、デジタルにすることで省略できる。そういったメリットについて説明しながら、引き続き参加してもらえよう働きかけているところである。

また、今のところデジタル商品券のみとすることが原因で参加を辞めたいという声は聞いていない。

しかしながら、商品券による売上げが極端に少なかったため、6年度は辞退したいという店舗も一定数あるため、市としては5年度並みの参加店舗数を目標としているが、実際には横ばいか少し減少するのではと考えている。

(質問)

紙の商品券をやめることで、印刷や郵送に係る費用は減少しても、高齢者に対するデジタル・ディバイド対策に新たに事務費用が発生するものと思われる。

また、デジタル・ディバイド対策をどれだけ尽くしても、紙の商品券がなくなれば購入をためらう高齢者はいると思われ、平等な購入機会の提供のために、紙の商品券は残してもよかったのではないかと思う。

デジタル商品券に一本化することによるコスト削減効果について説明してもらいたい。

(答弁)

高齢者に向けたデジタル・ディバイド対策については、きめ細かに様々な事業を実施していることから、一定の経費は発生している。

しかしながら、紙の商品券をやめることで、数十万枚分の印刷・偽造防止加工費用、郵送費用、回収後の金融機関への持込み・換金手続費用、偽造チェック業務費などが不要となり、明らかにデジタル・ディバイド対策にかかる費用よりも大きな費用削減効果を上

げている。

観光経済局終了

12時10分

【予算決算委員会経済観光分科会（観光経済局）の審査】

意見取りまとめ

12時34分

- (1) 付託議案審査について
- ・議案第113号及び議案第127号、以上2件については、いずれも全会一致で可決すべきものと決定。
- (2) 閉会中継続調査について
- ・別紙のとおり閉会中も継続調査すべきものと決定。
- (3) 委員長報告について
- ・正副委員長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了

12時37分

【予算決算委員会経済観光分科会の意見取りまとめ】

協議事項

12時38分

・行政視察について

令和7年1月27日（月）～29日（水）に2泊3日で実施することに決定。視察先及びテーマについて正副委員長に一任することに決定。

閉会

12時44分